

アフリカから見たウクライナ戦争

(ワシントン DC でオンラインのラジオ・スプートニクをやっている活動家ショーン・ブラックモンとジャッキー・ラグマンがスプートニクの番組「必要とあれば何でも」(By Any Means Necessary) でザンビア社会党の代表フレド・メンベ博士をインタビューしたもの)

ジャッキー・ラグマン著、脇浜義明訳

出典：Black Agenda Report, 2022年12月3日

ブラックモン：司会のショーン・ブラックモンとジャッキー・ラグマンです。いつものように、世界で起きている政治的、社会的、経済的運動や事件と聴衆を繋ぐ案内役をします。今日はザンビア社会党のフレド・メンベ博士をお招きして、アフリカの観点から見たウクライナ戦争について話し合います。ようこそ、博士。

メンベ博士：お招きありがとうございます。

ブラックモン：我々はこの番組で、急速に拡大するウクライナ戦争、すなわち NATO とロシアの代理戦争の展開をずっと追跡しています。そしてそれに対する国際的反応、今年2月にロシアがウクライナ侵攻に踏み切った後、あたかもロシア非難の合唱に世界中が乗っているというイメージを、米国、西側、その同盟国や従属的パートナーが演出しているのを見てきました。しかし、詳しく観察すると、必ずしも世界全体が西側の主張に賛成しているわけではありません。もっと複雑な絵模様が見えます。3月にロシアの侵攻を非難する国連決議がありました。35カ国が決議に棄権し、そのうち17カ国がアフリカ連合の国でした。それに西側のプロパガンダ車に容易に飛び乗らない南アのシリル・ラマポーサ大統領のような人物もいます。それで、アフリカ南部のザンビアにいるあなたの視点から、何故アフリカ諸国が西側と異なる反応をするのかをお聞きしたいのです。地政学的な現実についてどうお考えでしょうか？

メンベ博士：まず言わなければならないのは、戦争は良くないことです。戦争の非道さに心を動かされないわけにはいかない。無法な戦闘で民衆は振り回され、自ら望んだわけでもない選択を迫られます。また戦争は複雑な歴史的過程から起きるのに、善・悪二元論的に単純化します。ウクライナ戦争は NATO とか民族だけの問題じゃなく、多様で複雑な要因が絡んでいます。どんな戦争もいつかは終わり、交渉に移らなければならない。

アフリカとロシアは闘いの歴史を共有しています。アフリカ人が解放闘争を闘っていたとき、現在ロシアを非難している国々は我々の味方ではなかった。私たちは間違っていたわけではなく、正しかったのです。しかし、彼らは私たちの側には立ちませんでした。植民地主義者の味方だった。アパルトヘイトの味方だった。我々はそのことを忘れていません。簡単に忘れることはできません。ごく最近まで植民地支配されていたのですから。ジンバブエが独立したのは1980年で、ナムビアが独立したのは1990年です。我々は誰がアパルトヘイトに反対し、誰がそれを実行したかを記憶しています。アンゴラ、モザンビーク、カーボベルデの植民地主義者を支持したのは誰かを記憶しています。アフリカの人々も歴史的

な感覚を持っているわけです。ロシアは我々を助けてました。だから、アフリカ人はロシア非難をしないのです。

それにロシアがウクライナに侵攻した背後には複雑な要因があります。短絡的に考えず、その要因を分析することが大切です。1990年以降執拗な NATO 東進が続いてロシアを追い詰めました。初期の頃には、例えばボリス・エリツィンのように、ロシアがそれに協力したこともありましたが、それは例外的で、NATO は東欧を次々と NATO に入れてロシアに圧力をかけました。この長い歴史を理解することが重要です。そして、米・西欧のそういう帝国主義的拡大の歴史をアフリカの人々はよく知っています。我々はプロパガンダを鵜呑みにしないで、自分たちで分析して結論を出します。我々にとってどちらが敵でどちらが味方かを判断します。味方が冒す間違いも見つめますが、敵の行動や決定とは区別して考えます。

私たちは誰が味方であるかを理解しています。ロシア人は味方で、ロシアはアフリカに植民地を作ったことはありません。我々の解放闘争を助けてくれ、アフリカの国を支配したことはありません。この点を理解しなければなりません。支援して解放した国を植民地にしたり、搾取したりしませんでした。我々はその歴史をよく知っているのです、アフリカ人は反ロシアのプロパガンダに乗らないのです。

アフリカ人はウクライナ戦争が続くことを望んでいません。戦争は悪で、貧乏人や労働者を苦しめます。戦争そのものが犯罪です。戦争は犯罪を培養します。平和は常に優先されるべきものです。ウクライナ戦争が終わることを望んでいますが、それにはウクライナの安全保障はもちろん、ロシアの安全保障も考慮しなければなりません。ヨーロッパの安全保障も考慮しなければならない。一方だけの、一地域だけの、一国だけの安全保障では戦争は終わりません。みんなに安全への権利があるのです。ロシアの安全保障を考慮せずに、ヨーロッパの安全保障、ウクライナの安全保障を確保することはできません。同様に、ウクライナの安全保障上の懸念、ヨーロッパの安全保障上の懸念を考慮せずに、ロシアの安全保障上の懸念に対処することもできません。私たちは皆、自分の安全保障を必要としています。自国の安全保障上の利益を追求すると同時に、他国の安全保障上の懸念も考慮しなければなりません。ウクライナ戦争で欠けているのはそういう当たり前で平等な安全認識です。ロシアには正当な安全保障上の懸念があります。理由もなくウクライナに侵攻したのでなく、安全を脅かされたから軍を進めたのです。NATO は、旧ソ連との約束を破って東欧に進出、ついにロシア国境にまで迫りました。それをロシアが黙って座視すべきでしょうか？もし米国や西欧が国境近くにロシアのミサイル基地がある状態になれば、黙って座視するでしょうか。

ジャッキー・ラグマン：あなたが言ったロシアとアフリカ解放闘争の連帯の歴史は大切です。米国民は、パン・アフリカ主義運動をやっている人はこの歴史を少しは知っていますが、大部分は知りません。アフリカ人の植民地主義との闘い、ロシアがそれを支援したことを知らないのです。だから、アフリカが欧米のロシア非難に同調しない、欧米の戦争奨励合唱に

参加しないことを理解できないのです。この関係に対する無知が、アフリカ諸国がロシアを非難することを拒む理由や、ウクライナを支援するためにこの戦争の継続を文字通り応援することから手を引くことを、米国が理解することを困難にしていると思いますか？戦争の被害を受ける人々、戦争を支持しないし望んでいないアフリカ大陸の労働者階級や貧しい人々の生活をまったく考慮しないで、米国政府は「ウクライナを支持せよ」と繰り返して言っています。

メンベ博士：無知が問題であるだけでなく、この戦争には傲慢さや人種差別がつきまっています。米国のためになることはみんな他の国のためになるという論理が働いています。ロシア国境近くに NATO の米軍基地ができて、米にとってよいことだからロシアもそれを受け入れよ、というわけです。もしメキシコやカナダにロシア軍が駐屯したら米国はどうしますか？ 米国はそれを受け入れないでしょう。1962年のキューバ危機を思い出してください。キューバは米国のフロリダから90マイルのところに位置し、そこにソ連がミサイルを配備するというので、大騒動になり、それは友好的に解決されなければならなかったのです。欧米はウクライナを NATO に入れてミサイルを配備しようとしたのです。そのような状況でロシアは安心できるでしょうか。これらは保証されるべき問題です。今こそミンスク条約で、ロシアとウクライナの安全保障を実現すべきです。そしてヨーロッパは米国に邪魔されずにロシアと独自の関係を構築すべきです。

それにウクライナの超民族主義的、超国家主義的法律をなくし、多民族社会にふさわしい普通の法律にすべきです。

重要な事柄に関する交渉や合意が成立しないと、ますます危険な武器で対峙し合うばかりでなく、他国もこの争いに加わって、戦争が手に負えない状態になるかもしれません。私たちは、この紛争が制御不能になることを望んでいません。この戦争を終わらせるための交渉が必要なのです。私の意見では、3つの主要な問題を中心に交渉すべきだと思います。1) ミンスク条約の復権、2) ロシア及びウクライナの安全保障、3) 狂信的な超民族、超国家主義的法律の廃止です。もちろんこれらは単純なものではありません。しかし、取り組まれるべき問題なのです。

ブラックモン：確かにそうですね。最後の質問です。米国帝国主義がロシアと中国とヘゲモニー大闘争を行い、アフリカがその新冷戦の戦場となる可能性があります。言語的、文化的、人種的、地理的に多様なアフリカ大陸は、この新冷戦時代にどのような役割を担うでしょうか。米政府の支配から独立した世界秩序を建設するうえでアフリカの役割を話してください。

メンベ博士：我々多様なアフリカ人にとって一番大切なことは平和です。発展するためには平和が必要であり、人民を貧困から抜け出させるためにも平和が必要です。我々は冷戦はもちろん如何なる戦争にも巻き込まれたくありません。戦争や紛争はもういやというほど体験しました。私たちは600年以上にもわたって辱められてきました。奴隷狩りされ、奴隷商品として売られてきました。私たちの地域は植民地にされました。古典的植民地主義から抜け出しても新植民地主義の犠牲になりました。屈辱と苦難と虐殺の歴史でした。今こそア

フリカは復活すべき時です。冷戦のもとではその復活はやってきません。だから、我々は非同盟なのです。他の人々と同様に、我々には我々独自の利益、幸福を追求する権利があります。しかし、そのためには、平和な世界が必要です。アフリカ人は平和な世界を望んでいます。アメリカ人も、ヨーロッパ人も、ロシア人も平和を望み、平和を必要としているはずで、平和の脅威になるものは我々みんなにとって脅威です。それは富を破壊し、生産を破壊し、貧困をもたらし、絶望を増大させます。ウクライナ戦争は我々が起こした戦争ではなく、それに巻き込まれたくありませんし、戦争は我々にも害を及ぼします。だから解決を提案するのは、どんな戦争でも波及効果があります。当事者だけでなく、二次的な被害があるのです。

ブラックモン：ありがとうございました。